

施策事例 ① 住民参画・NPO・ボランティア関連施策

菜の花のまちづくり～菜の花がつなぐ人の輪～

自治体情報

熊本県水俣市

人口 / 27,169人

標準財政規模 / 8,198百万円

担当課 水俣市教育委員会生涯学習課(寄ろ会みなまた事務局)

電話番号 直通 0966 - 61 - 1639

実施主体 寄ろ会みなまた(よろかいみなまた)

関連ホームページ <http://www.city.minamata.lg.jp/>

事業期間 平成17年度から

関係施策分類 ⑤、⑦

予算関連データ

総事業費：689千円(H23)

名称	所管	金額(千円)
子どもたちによる耕作放棄地解消事業補助金	熊本県	225
水俣市補助金	水俣市	300
自主財源	寄ろ会みなまた	164

施策のポイント

地域のさらなる活性化を図るためのツールとして「菜の花」に着目。休耕田を利用し、家庭・学校・地域との連携により、子どもたちと一緒に「菜の花によるまちづくり」に取り組み、環境保全、世代間交流を促進している。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

平成3年、水俣病によって壊された地域のつながりをもう一度作り直すため、26の行政区ごとに住民の自治的組織「地区寄ろ会」、その集合体として「寄ろ会みなまた」が組織された。地域住民自ら寄り合い、話し合い、地域資源の再発見とその活用を図りながら、自らの手で環境に配慮した地域づくりを行っている。近年、地区ごとの取り組みの温度差が生じ、活性化が課題となってきた。

2. 取組の具体的内容

・休耕田(2箇所50反)を利用し、菜の花を植え景観づくりを行うとともに、体験を通して循環について学ぶ、環境及び食育の学習メニューの創設などを行っている。

また、搾油した菜種油を学校給食センターへ提供し、その油を使った学校給食メニューの合同試食会(児童・寄ろ会)を開催することで、世代間の交流促進も行っている。

○体験学習メニュー

・菜種の刈取り、苗植え、追肥土寄せ、新芽摘み作業等の畑作業及び「油かす」の肥料としての活用(学校へ贈呈)

・搾油機を使用した菜種油搾り

・廃食油の再利用によるろうそく作り(「火のまつり」で使用)

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

各地区の取り組みの活性化

4. 現在までの実績・成果

取組みの輪が広がり、地区(3箇所)、学校(1箇所)においても、活動が行われ、家庭・学校・地域との連携が促進されている。休耕田の解消・景観づくりに貢献することにとどまらず、子どもとともに菜種の刈取りや菜種落とし、菜種の搾油、菜種油を使用した給食試食会(菜種油を水俣市学校給食センターに贈呈)、植付け、新芽摘み等を行うことで、農作業体験を通して食べ物の大切さや循環の仕組みを学ぶ機会を提供し、環境教育・食育・地産地消の観点からも多大な成果をあげている。子どもへの指導にあたっては、会員の豊かな経験・実力を発揮し、生涯学習の実践の場となっている。また、本取り組みは、菜種の収穫・搾油、菜種搾油かすの肥料への活用、廃食油のリサイクル(廃食油ろうそくの製作とイベントでの使用)など、環境に負荷を与えない「資源循環型のまちづくり」そのものであり、水俣市が進める「環境モデル都市づくり」にも大きく寄与している。

(H18～24の実績)

収穫量合計約3,000kg、搾油量合計約1,000ℓ、学校給食センターへの贈呈量約400ℓ、延べ参加人数7,000人。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

(苦労した点)

・事前準備(畑の維持管理等)の必要性

・学校との調整(悪天候に伴う日程の変更)

・学校給食の献立との調整等

(課題・苦労への対応)

・これまでの試行錯誤で得た「ノウハウ」を最大限に発揮

・各関係者の全面的な協力を得て実施

・専門家等の指導・助言を得て、円滑な実施

→取り組みの拡充(地域への波及)

6. 今後の課題と展開

・菜の花がつなぐ交流の場 人が集まりいろいろなアイデア

→様々な取り組みに発展

・耕作放棄地の解消 ～ 景観づくり等への貢献

・子どもの体験学習の充実と促進

～ 家庭(親、子ども)、学校、地域、学校給食センター等と連携

・食育・地産地消の推進

(子ども) 農作業体験・食べ物の大切さを「五感」で学ぶ場に

※学校の「畑」では、年間を通じ生育観察

(大人) 豊かな経験・実力を発揮～楽しみ・生きがいに

・資源循環型のまちづくり →水俣市が進める「環境モデル都市づくり」に寄与